

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2018年度 最優秀園
学校法人山梨学院 山梨学院幼稚園

本論文は、「お米づくりから広がる子どもたちの世界」をサブテーマとし、米づくりに関する1年間の活動に注目しました。そして、「長期にわたる活動をやり遂げることで育まれた『科学する心』は、子どもの中で実体験として残っていく」という、実体験が成長に繋がる過程を明らかにしました。保育者は、土作りから脱穀、餅つきや米糠（こめぬか）での染色までの、米づくりに関する多様な体験をする子どもたちの発見や探究の姿を丁寧に見取っています。そして、米づくりに関する興味や探究を深めた子どもたちが味わった収穫の喜びに加え、“大切に作る心”“優しい心”“感謝の心”などの、主題に繋がる心の育ちを捉えています。自由な発想で展開できる遊びとは異なる米栽培からは、「子どもたち主導の活動が豊かに展開した」との成果を実感されています。

論文の初めに、「科学する心」が育まれるサイクルを示しました。事例では、丁寧に振り返った実践を記述し、多様な体験をした“遊びや体験の図”としてまとめられています。この“遊びや体験の図”に示された多様な活動は、様々な遊びへの興味の広がりなど、ダイナミックな発展性への原動力となっています。すなわち、地域の施設や専門家、小学校教諭や保護者との連携が、米づくりに関する活動を深耕させました。また、米づくりの活動は、「興味や好きなことを“入り口”にした」ことから、子どもたち自らが探究を深めていった実態を把握することができました。さらに、一人一人の興味を支える環境と、保育の工夫すべき点も明らかになりました。特に、「保育者も初心者であり、子どもと共に試行錯誤し、探究を深めた」体験により、子どもも保育者も協働的な探究を進めることで、「“古代”へと興味が広がり、質の違う多様な体験に繋がった」という過程には、他園の参考となる実践が示されています。

これらより、長期にわたる米づくりは、子どもたちには「科学する心」が育まれる多様な体験を重ねる活動となったこと、また、保育者には主題についての考え方を深化させることに繋がる独創性のある実践であったことが高く評価されました。

今後も、子どもの興味や関心に添った「子どもたち自身の探究を応援する環境構成」に取り組むことで、自ら発想や疑問を膨らませて夢中になって活動する子どもに、「科学する心」が育まれていくことを願っております。